

肉羹汁ノ消化機能ニ対スル試験 : Experimentelle  
Untersuchungen über Bedeutung der  
Estraktivstoffe des Fleisches für die  
Magenverdaunug

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38515">http://hdl.handle.net/2297/38515</a>

十全會雜誌

(第四拾八號)

原着及實驗

○肉羹汁ノ消化機能ニ對スル試驗

Experimentelle Untersuchungen über die Bedeutung der  
Estraktivstoffe des Fleisches für die Magenverdauung.

特別會員 佐々木 達

(澤 金)

肉羹汁ハ已ニ人ノ知ル如ク一種ノ營養品トシテ治療社會ニ現ハレタルモノトス、然ルニ試驗的ニ此肉羹汁ノミヲ以テ動物ヲ飼養スルニ其動物ハ餓死スルヲ常トス、又此肉羹汁ヲ分拆スルニ蛋白質ノ含量ハ極メテ少ナク其主成分ハ Kreatin, Kreatinin ノ如キ越幾斯分ノミナリ、此等ノ越幾斯分ハ毫モ變化セスシテ尿中ニ排泄セラル、モノトス、以上ノ試驗ニ基キ最早肉羹汁ハ營養品タルノ價值ヲ失フニ至レリ

然ルニ臨床上ニ於テハ此肉羹汁ヲ他ノ食物ト共ニ衰弱患者ニ試ムルニ其食慾ハ正シク充進シ大ニ營養法ヲ助クルノ事實アリ、是乃此肉羹汁ノ神經系統ニ對スル亢奮作用ニ歸セサルヘカラス、此亢奮作用ノ存在ヲ証明スルニハ動物

ノ脊髓囊中ニ Kream, Kreatin, Kreatinin ノ如キ肉ノ越幾斯分ヲ注入スルカ或ハ大脳皮質上ニ之レヲ点滴スレハ著明ノ間代性及強直性痙攣ヲ發ス是レ已ニ Landois ノ証明シタル處ナリ、又 Liebig 氏ノ肉越幾斯ヲ兔ノ大脳ノ表面ニ塗布スレハ神經系統ノ亢奮性ヲ亢進セシメ反射的ニ癲癇發作ヲ發生セシムルヲ得ベシ、是レ Koranyi 及 Tauszsk ノ証明シタル所トス

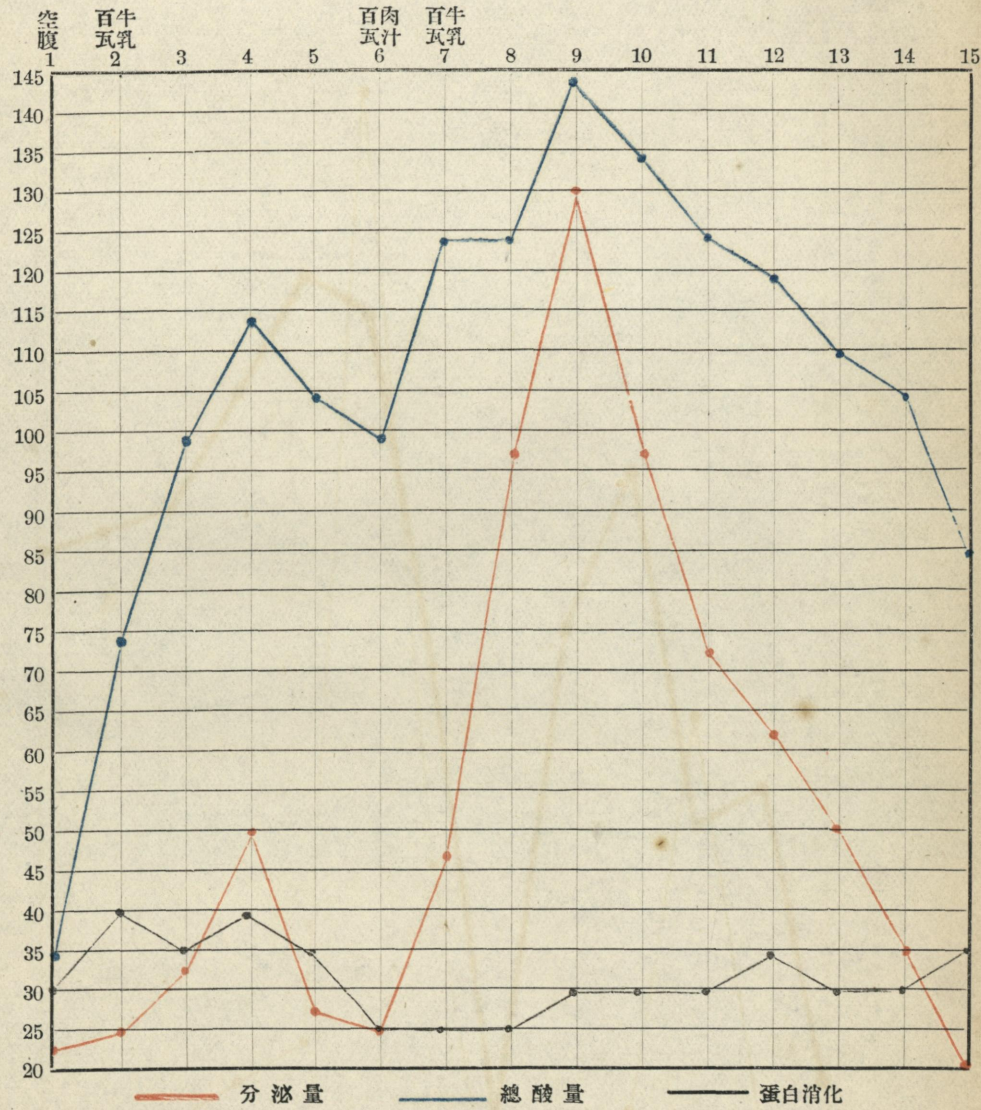
然ノミナラス肉羹汁ハ特ニ胃ノ消化機能ニ對シ特別ノ作用ヲ有スルモノトス、近年 Pawlow カ犬ニ就テ試驗シタル成績ニ由レハ「ソップ」若クハ Liebig 氏ノ肉越幾斯ハ全一量ノ蒸餾水ヨリモ胃液分泌ニ對スル作用ノ大ナルヲ証明セリ、又 Schreuer 及 Biegel ハ人類ニ就テモ全一ノ成績ヲ得タリ、終リニ Moritz ハ胃ノ運動力ヲ研究スルニ當リ「ソップ」ト蒸餾水ノ胃ニ留ル時間カ全一ナルヲ証明セリ

斯ノ如ク肉羹汁ハ胃液ノ分泌ヲ亢進スルモノトセハ普通吾人ノ應用スル食前ノ肉羹汁飲用ハ果シテ消化機能ニ如何ナル影響ヲ呈スルカヲ綿密ニ検査スルコトハ甚タ興味アルコトス、余ハ此食時ノ肉羹汁ト胃液分泌ノ關係ヲ犬ニ就テ研究セリ今其成績ヲ爰ニ報告セントス

先ツ其試驗ノ方法ノ概畧ヲ述ベンニ Pawlow 氏ノ法ニ從ヒ犬ニ sog. Kleiner Magen oder Magenblindsack (小胃或ハ盲囊胃) ヲ造レリ即チ胃ノ基底部ニ下方ヨリ縱切開ヲ行ヒ其上部ハ粘膜ノミヲ切開ス、次テ左右各別ニ縫合スレハ胃ハ全ク二分セラレ大小二個ニ區別セラル只其上部ノミハ粘膜以外ノ組織ヲ以テ連絡ス、此二個ノ胃ノ血管及神經ハ尙ホ連絡アルカ故ニ大胃乃チ食道中ニ通スル右側胃中ニ食物來リ分泌刺戟ヲ與フレハ小胃乃チ左側胃中ニモ全時ニ分泌アリ、此小胃ノ下端ヲ開口シ之レヲ腹壁ニ縫合シ胃瘻ヲ造レハ食物等ノ混合ナキ純粹ノ胃液ヲ採取スルヲ得ルモノトス



第 壹 表



左側數字：

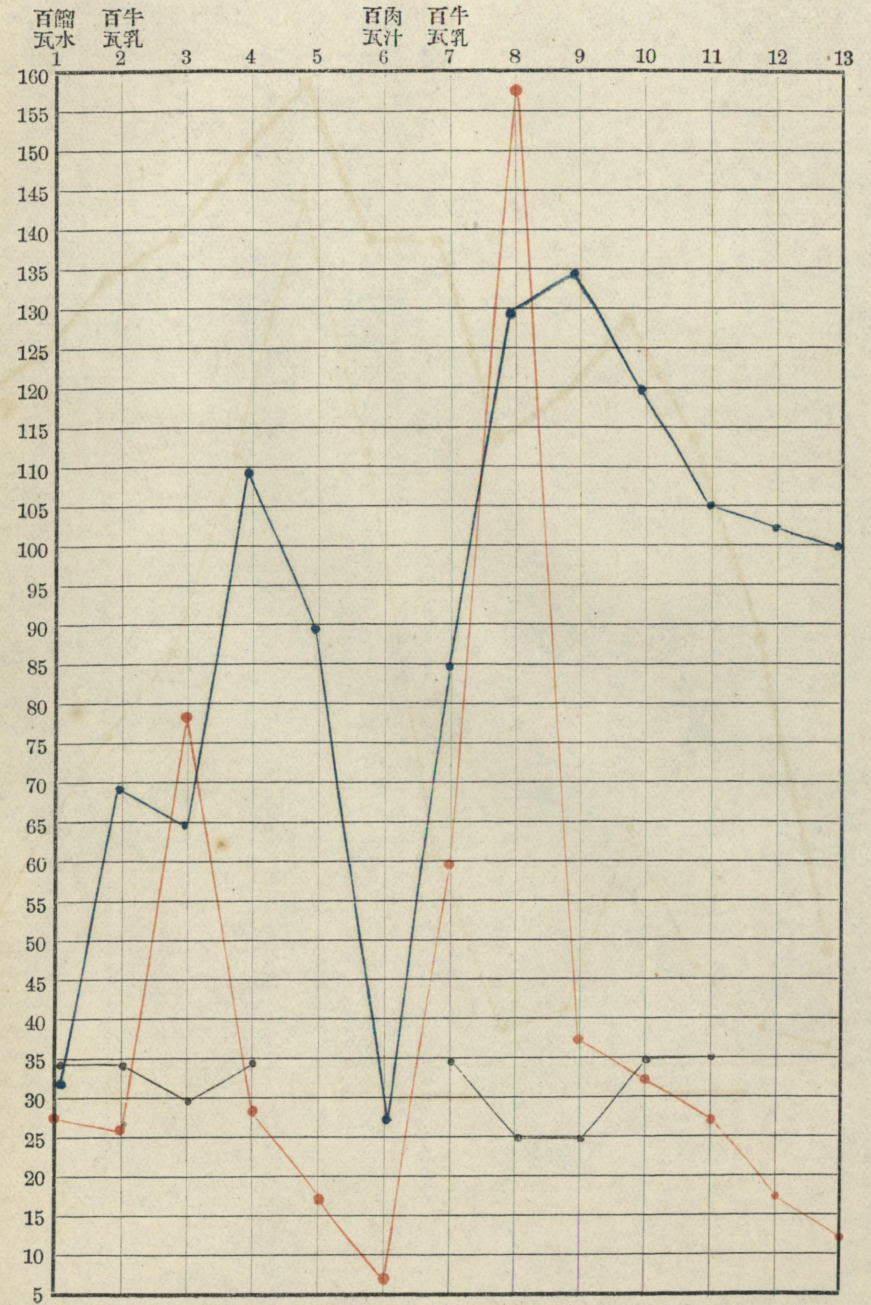
赤線ニ對シテハ每三十分間分泌量 ccm ノ十倍

青線ニ對シテハ總酸ヲ中和シタル  $\frac{1}{10}$  定規ナトロン ccm ノ十倍

黒線ニ對シテハ蛋白消化力メツト氏 mm ノ十倍

上側數字ハ每三十分胃液採取順序

第 貳 表





此小胃ヲ造リタル犬ニ廿四時間全ク絶食セシメタル后チ試験食トシテ牛乳 100 ccm. ヲ與エ小胃ヨリ点滴分泌スル胃液ヲ卅分間宛採集シ、其分泌ノ停止スルヲ待チ 10% ノ Liebig 氏肉越幾斯溶液 100 ccm. ヲ與エ次テ卅分后ニ又牛乳 100 ccm. ヲ與ヘ卅分間宛ノ胃液ヲ採集セリ、然ルニ后ノ分泌量ハ前ノ分泌量ヨリモ甚タ大ナルヲ証明シ得タリ

第二ノ試験トシテ最初蒸餾水 100 ccm. ヲ與ヘ三十分后ニ牛乳 100 ccm. ヲ與ヘ分泌停止ヲ待テ 10% ノ Liebig 氏肉越幾斯溶液 100 ccm. ヲ與ヘ三十分后ニ又牛乳 100 ccm. ヲ與ヘ均シク三十分毎ニ分泌量ヲ檢セリ、是亦前キノ分泌ヨリモ后ノ分泌ノ大ナルコトヲ証明シ得タリ

尙ホ各分泌部分ニ化學的試験ヲ行ヒ其消化力ヲ檢查セリ

此兩種試験ノ成績ヲ總轄スレハ次ノ如シ

- 一、單純ノ牛乳食ヨリモ其食前ニ肉越幾斯ヲ與フレハ其分泌量ヲ増加ス
- 二、食前ニ蒸餾水ヲ與ヘタルトキト肉越幾斯ヲ與エタルトキトヲ比較スルニ乙ハ甲ヨリモ分泌量多シ
- 三、鹽酸分泌ハ胃液分泌ノ増量ト共ニ増加ス
- 四、分泌時間ハ肉越幾斯應用時ニ最モ長ク繼續ス、從テ其分泌量モ亦大ナリ
- 五、蛋白消化ハ特別ノ變化ナシ、然レモ長ク持續ス

尙ホ詳細ハ別表ノ如シ

以上ノ試験成績ニ由テ結論スレハ固有ノ食物攝取前ニ肉羹汁ヲ應用スレハ之レヲ應用セサルトキニ比シ消化力強キ鹽酸多量ノ胃液ヲ多量ニ分泌シ且其分泌ハ長ク持續スルコトヲ証明シ得タルモノトス

然ルニ此試験ハ動物試験ナルカ故ニ直チニ之レヲ人類ニ應用シ得ヘキヤノ疑問生セン實際余カ報告セシ「ウイスバー

デン」ノ獨乙內科學會ニ於テモ同一ノ疑義ヲ以テ反對セシモノアリ、然ルニ幸ニ其後人類ニ就テモ同一ノ試驗ヲ行フコトヲ得タリ、然モ其成績ハ同一ナリシ、其一例ハ咽頭チフテリ―后ノ癩痕收縮ニ基キ食道ノ閉塞セシ者他ノ一例ハ腐融藥嚙下ニ基キ食道ノ閉塞セシモノナリ、此二例ノ人工胃瘻ニ就テ同一ノ試驗ヲ行フコトヲ得タリ  
 此試驗ニ基キ胃ノ分泌力衰ヘタル患者例之熱性病ノ如キモノニ肉羹汁ヲ與フルコトハ甚タ有益ナルコトヲ決定シ得ベシ且此試驗ヲ基礎トシテ肉羹汁ノ分泌催進作用アルコトヲ一層確實ナラシメタルモノトス  
 又吾人ハ古來ノ習慣トシテ海ノ内外ヲ問ハス汁類ヲ食事ノ初發ニ飲用スル理由モ此試驗ニ由テ明ナリ  
 胃病専門家ノ泰斗 *Boyd* カ何故ニ吾人ハ食物攝取時ニ必ス液体ヲ飲用スルカト云ヘル問題ニ對シ恐クハ消化液ノ分泌ヲ亢進セシモノナラント答エリ、此疑問モ此試驗ニ由テ氷解スルモノトス

## ○慢性下痢ノ療法ト牛乳ノ關係

*Verhalten der Milchdiät bei chronischer Diarrhoe.*

特別會員 佐々木 達

(澤 金)

疾病治療ノ原則トシテ最モ必要ナル條件ハ當該臟器ノ安靜ナリ、醫ハ其自然的治癒機能ヲ監督シ之レヲ妨クル條件ヲ避クレハ足ル、例之ハ肺炎、腸窒扶斯ノ如キ傳染病ハ平臥安靜ヲ命シテ血液ノ分配ヲ平等ナラシメ可及的其病的臟器ノ刺戟ヲ避ケ、一方ニハ心臟及脉膊ヲ監督スレハ特別ノ藥物ヲ用ヒスシテ治癒ニ赴クコト多シ、尙ホ著明ナル